

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

本校は、長きにわたる歴史の中で培われた伝統と築きあげられた実績の上に、平成 20 年より生徒一人ひとりの進路実現をめざす普通科単位制高校とした。「起て一千の鳳雛よ」の願いのもと、文武両道の精神を重んじ、新しい時代に求められる資質・能力を育成するとともに、個々の生徒の可能性を最大限に伸ばす学びの実践から一人ひとりの第一志望をかなえ夢の実現を果たす学校をめざす。

『鳳高校が育成をめざす生徒像』

- (1) 将来に向かって高い志を抱き、信念を持って果敢に挑戦する生徒
- (2) 義務教育の学習内容を完結し、本校入学後も向学心を持って勉学に取り組む生徒
- (3) 本校の単位制システムを十分理解し、進路実現のための幅広い知識と情報の吸収を意欲的に行う生徒
- (4) 学業のみならず、部活動や学校行事等を通して、自己の成長のために努力を惜しまない生徒

## 2 中期的目標

鳳高校は、『第一志望をかなえる鳳』、『進路実現100%をめざす鳳』を合言葉に、以下を本校の中期的目標とする。

- 1 前に踏み出す力を育て、生徒の第一志望をかなえる。
  - (1) 高い志を抱き、信念を持って果敢に挑戦する姿勢を育む。
  - (2) 普通科単位制の優位性を具現化するために、ガイダンス体制の一層の充実を図る。  
※ 生徒の学校満足度「入学して満足」が100%をめざす。(平成 28 年度 70%)
- 2 社会を生き抜く力を育成する。
  - (1) 人に心を開き、思いやりをもって接することのできる生徒を育てる。
  - (2) 未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力を身に付ける。
  - (3) 社会のルールや人との約束を守る規律性の大切さを教える。
  - (4) ボランティア活動など社会に貢献する人材の育成。
  - (5) 安全で安心な学校をみんなで作る。  
※ 生徒の「自己管理能力は十分にある」が100%をめざす。(平成 28 年度 73%)
- 3 疑問を持ち、その解決に向けて考え抜く力を育てる。
  - (1) 十分な知識を基盤として、課題を探究する姿勢を育てる。
  - (2) 「授業アンケート」を分析し、教職員の授業力向上のための材料とする。
  - (3) 今年度3年目となる学校経営推進費事業『フェニックス・プロジェクト』での英語の四技能統合型授業を中心としたアクティブ・ラーニングのさらなる推進と各教科における生徒の主体的、協働的な学びを促進する。  
※ 生徒の「授業内容はよく理解できる」が100%をめざす。(平成 28 年度 70%)
- 4 広報活動を学校経営の重要戦略と位置づける。
  - (1) あらゆるチャンネルを活用して本校教育活動の情報発信を行う。
  - (2) 入試制度の改変をチャンスととらえ、中学生が本校の真の価値を理解して受験するよう、正確な情報の収集と提供を行う。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見
<p>◆回答の三者（生徒・保護者・教員）比較より</p> <p>(1) 授業理解について ※授業理解についての肯定（よく理解できている）意見の割合 生徒 76%、保護者 65%、教員 86% ○肯定割合が教員と生徒に開きがあることから、生徒目線に立った授業づくりを意識する必要がある。また、学年別に見ると、2年生で数値の落ち込みがある。「中弛み」の状態への対策が求められる。</p> <p>(2) コース選択・科目選択について（質問への肯定の割合） ※コース選択や科目選択に迷った（迷っている）。生徒 73%、保護者 56% ※情報が学校からよく提供された。生徒 81%、保護者 83% ※自分の進路に必要な科目が選択できる。生徒 91%、保護者 91% ※生徒の興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」教員 88% ○生徒も保護者も選択には迷ったが、情報提供には肯定的な意見が多い。 ○コース選択・科目選択に迷う生徒割合が増加してきているが、「迷った」と答えた生徒は「将来の進路や生き方について考える機会がある」という項目で肯定率が高くなっており、自身の進路について考えるよい機会になっていると考察できる。</p> <p>◆経年変化（単位制当初と今年度の比較より） ○「進路決定に必要な資料や情報を集める努力をしている」と回答した生徒が56%から71%に増加。スマホ等で簡単に情報収集できる表れだと推測できる。 ○「現在、塾・予備校などに行っているか」に対して、「よくあてはまる」と回答した者が34%から44%に上昇。特に1, 2 学年からの増加が見られる。生徒のニーズを把握し、よりきめ細やかな指導を心がける必要がある。 ・「本校の生活指導について、適切な指導が行われている」と回答した教員が79%から91%に上昇した。遅刻指導や登下校指導等、日々の地道な指導を実践してきたことで、教員の意識にも変化が表れたと考えられる。</p>	<p>◆第1回 平成 29 年 7 月 28 日</p> <p>(1) H28 年度学校評価から ○センター試験受験者の増加 ・センター受験に対する学習は、広い領域にわたっているのでバランスよい考え方に繋がることから将来に役立つ。そのことから受験者の更なる増加に向け、保護者への働きかけも必要かつ有効。 ・進学実績にとらわれずに個々の生徒にあった対応をすることが大切。</p> <p>(2) H29 年度学校経営計画について ・中間的目標 2 (2) 「未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力を身に付ける」ことは大切であるが、難しい目標なので地道な取り組みが必要。</p> <p>◆第2回 平成 29 年 11 月 24 日</p> <p>(1) 授業見学より ・情報のプレゼンの授業は自己表現力を育てるのに非常に素晴らしい。国語科と連携する等教科の枠を越えた取組みにするとさらに面白いと思われる。 ・生徒はどの授業も熱心に受けていて、学習効果が高い環境である。</p> <p>(2) 史跡探訪・オーストラリア国際交流研修報告について ・鳳高校の特色ある取組みとして継続してもらいたい。ブラックエンリッジハイスクールの受け入れは、極めて有意義であったと思われる。</p> <p>◆第3回 平成 30 年 2 月 14 日</p> <p>(1) スピーチコンテスト見学について ・「英語を話せる、書ける、聞き取れる」ということは今の社会では当たり前になってきている。是非継続して実施してもらいたい。 ・昨年度より保護者の参加者が増えている。さらに多く発信すべきである。</p> <p>(2) H29 年度学校評価及び H30 年度学校経営計画について ・H32 年入試改革に向けての取組みとして外部模試の導入、学力の定点観測を始める。今後、それらのデータをどう生かすかが大切である。 ・単位制高校という体制は変化に対応しやすい。その点を中学生にどんどんアピールしていただきたい。</p> <p>(3) H29 年度学校教育自己診断の結果報告について ・生徒の自己管理能力があまりないと思う教員が多いが、そう感じる具体的な理由、数字的な裏付けまで掘り下げて追求し、改善策を検討してもらいたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 前に踏み出す力を育て、生徒の第一志望をかなえる	<p>(1) 生徒が高い志と信念を持って、進路実現に果敢に挑戦するよう導いていく。</p> <p>(2) 普通科単位制の要であるガイダンスが効果的に機能するよう絶えず工夫する。</p>	<p>ア・大学、専門学校、就職それぞれに応じた指導を行い、全員の希望を実現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>強い意思を持って進路の実現を果たすよう指導する。</li> <li>センター試験の受験者の増加を図る。</li> <li>長期休暇中の講習を充実させる。</li> <li>難関大学にチャレンジする気概を育てる。</li> <li>オンラインクラウド型学習システムを活用し、自学自習時間の増加を図る。</li> </ul> <p>イ・生徒が最適な科目選択を行うよう、ガイダンスを効果的なものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に進路の資料・情報を自ら収集し咀嚼する姿勢を育てる。</li> </ul> <p>・専門家による説明会、講演会等を通して生徒のなかで進路のイメージを具体化させる。</p>	<p>ア・生徒の進路の実現100%をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>センター試験受験者の増加。(H28 193名)</li> <li>センター試験受験者の平均点が全教科科目で全国平均を上回る。</li> <li>より多い講習参加者。</li> <li>進路に関するホームルーム、各学年月1回以上。(H28・1年/10・2年/8・3年/7)</li> <li>生徒の平日の自学自習時間、全学年での学習時間の向上。(特に1年生の向上を図る)</li> </ul> <p>イ・ガイダンスに係る生徒アンケートの肯定的回答97%以上(H28/96.7%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全教員によるガイダンス年間2回実施。</li> <li>全教員による科目選択申請書点検。</li> <li>ガイダンス(進路啓発)HR(含総合学習)1年次 年間15時間、2年次 年間10時間以上。</li> </ul> <p>・専門家等による進路に関する講演会、説明会等を開催する。(H28 講演会10回、説明会19回実施)</p>	<p>ア・70期卒業生の進路決定 87%(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>センター試験受験者 H29/229.....(○)</li> <li>センター試験受験者の平均点が全国平均を上回った教科科目(1科目未達成 -0.1点)....(△)</li> <li>進路に関するホームルーム....(△)(1年/12・2年/8・3年/7)</li> </ul> <p>・生徒の平日の自学自習時間、全学年での学習時間の向上。(特に1年生の向上を図る) 平日:1年2~3時間/1~2時間とも生徒割合5%上昇(○)</p> <p>イ・ガイダンス肯定率96.9%(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全教員ガイダンス年間2回実施</li> <li>全教員による科目選択申請書点検.....(○)</li> <li>ガイダンス(進路啓発)HR 1年次年間14時間、 2年次年間8時間.....(△)</li> </ul> <p>・専門家等による進路に関する講演会(講演会11回、説明会20回)....(○)</p>
2. 社会を生き抜く力を育成する	<p>(1) 思いやりをもって人と接する生徒を育てる。</p> <p>(2) 未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力を身に付ける。</p> <p>(3) 社会のルールや約束事を守ることの大切さを教える。</p> <p>(4) ボランティア活動など社会に貢献する人材の育成。</p> <p>(5) 安全で安心な学校をみんなで作る。</p>	<p>ア・自治会活動、学校行事、部活動を通して人間力の高揚を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「集中と切り替え」を指導し、学習活動と部活動・学校行事の両立を図る。</li> </ul> <p>イ・オーストラリア海外研修、スピーチコンテスト等を通して、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年プレゼンテーション大会を継続実施し、思考力、表現力を育成する。</li> </ul> <p>ウ・時間厳守、とくに遅刻数を減らすことに徹底して取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>登下校時の安全指導、とくに自転車指導に取り組む。</li> </ul> <p>エ・ボランティア活動など社会貢献の機会を積極的に提供し、推進する。(H28/地域でのクラブ指導やコミュニティコンサートの実施など)</p> <p>オ・スクールカウンセラーと教職員の情報交換を緊密にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>月一回教育相談委員会を開催し、課題を有する生徒に関する情報共有を図る。</li> <li>教育相談室を生徒にとってさらに安心できる場所となるよう充実を図る。</li> <li>薬物乱用防止のための取り組みを継続する。</li> </ul>	<p>ア・校内活性化委員会を中心に、人間力を高めるための工夫を継続して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部活動加入率95%をめざす。(H28/90.2%)</li> </ul> <p>イ・オーストラリア国際交流研修の実施と昨年度並みの参加者をめざす。(参加者上限20名/H28・19名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スピーチコンテストの観覧者数(府立高校英語教員、地元中学教員、PTA)の増加。(H28 他校教員5名)</li> <li>1年プレゼンテーション大会の実施</li> <li>史跡探訪の継続実施。(H28/8名)</li> </ul> <p>ウ・生活確立週間を年間3回実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ノーチャイムデー、およびノーチャイムウィークの実施。(H28.2/ウィーク初実施)</li> <li>毎日の登下校時に安全指導を実施する。</li> <li>部活動生徒に対する一斉指導の実施。</li> </ul> <p>エ・社会貢献の機会を増やす。(H28/9回)</p> <p>オ・スクールカウンセラーと教職員のケース会議を適宜開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談に関するテーマでの教職員研修を実施する。(生徒「悩みや相談がしやすい」40%)</li> <li>薬物乱用防止教室を年2回実施する。(H28 2回実施)</li> </ul>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部活動加入率88.5%.....(△)</li> </ul> <p>イ・オーストラリア国際交流相互研修が実現.....(◎)(現地研修は、上限20名で実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スピーチコンテスト観覧者数他校教員15名.....(◎)</li> </ul> <p>・1年プレゼンテーション大会の実施(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>史跡探訪の継続実施。 13名参加.....(○)</li> </ul> <p>ウ・生活確立週間年間3回実施.....(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ノーチャイムデーのみ実施....(△)</li> <li>携帯、スマホ利用指導実施....(○)</li> </ul> <p>・登下校指導実施 苦情件数13件(H28/13件)(△) 遅刻者数24%減.....(○)</p> <p>エ・地域とともにスクエアドストレイトの実施.....(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会貢献活動(ボランティア)8回.....(△)</li> </ul> <p>オ・ケース会議7回(H28/5回).....(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談関連の職員研修の実施.....(○)</li> <li>薬物乱用防止教室2回....(○)</li> </ul>

府立鳳高等学校

<p>3. 疑問を持ち、その解決に向けて考え抜く力を育てる</p>	<p>(1)十分な知識を基盤として、課題を探求する姿勢を育てる。</p> <p>(2)「授業アンケート」を分析し、教職員の授業力向上のための材料とする。</p> <p>(3)英語におけるアクティブ・ラーニング推進のための「フェニックス・プロジェクト」の実践を継続する。</p> <p>(4)英語以外の教科におけるアクティブ・ラーニングを推進する。</p>	<p>ア・生徒自らが課題を発見し、解決のためのプロセスを探求する姿勢を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公開授業、研究授業を通じて、教員間で効果的な授業法についての意見交換を行う。</li> </ul> <p>イ・生徒による授業アンケート(年2回)結果を分析し、授業改善に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者に対し、年2回の公開授業への積極的な参加をもとめる。</li> <li>教科を超えた授業見学を通して、若手教員の授業力向上を図る。</li> </ul> <p>ウ・4技能型の能力育成を進めるためのICT活用法を「反転学習」などの手法で探り、利用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>協働学習形態での指導の研究と実践を継続する。</li> <li>オーサリングシステムを使った教材により、リスニングを攻略する。</li> <li>実践の成果を広く発信し、高校英語教育におけるパイロットの役割を果たす。</li> <li>「フェニックス・プロジェクト」で活用しているICT機器の利用講習会を持ち、各教科における汎用性を高め、実施者の増加を図る。</li> </ul> <p>・授業において生徒のさらなる主体性に配慮した授業の実施</p>	<p>ア・半期認定科目30科目、全体として140科目の設置。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度以上の公開研究授業を実施。(H28/9回実施)</li> <li>実用英語技能検定2級合格者の増加。(検定取得者の把握)</li> </ul> <p>イ・H28 授業アンケートの結果向上者数の増加。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公開授業参加の保護者数が年間150名以上。(H28/142名)</li> <li>初担任、新任教職員の情報交換会、および「本校が2校目となる教職員の会」も継続実施する。(H28/3回実施)</li> </ul> <p>ウ・音声・画像等を活用したICT機器用教材を作成し、共用教材としてストックするとともに、クラウド上に教材をあげ、反転学習を実現する。(活用生徒数の把握)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ペアワーク・役割のある小グループ活動・ディベート等のアクティブ型指導方法の研究と実践を継続し、ノウハウを蓄積・共用する。</li> <li>公開授業での実践発表を通して「フェニックス・プロジェクト」の成果を府立高校全体に発信する。</li> </ul> <p>・ICT機器活用教員5割以上(H28/44%)</p> <p>・授業における生徒の更なる主体性に配慮した授業づくり実施率の向上(学教自診断で全体教員の7割以上)</p>	<p>ア・設置科目の精選実施・・・・・・(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公開研究授業9回実施(新任除く)・・・・・・(○)</li> <li>2級合格者数を把握・・・・・・(○)(準2級以上73名)</li> <li>授業アンケート数値上昇者・・・・(○)数値上昇者58%(H28/57%)</li> <li>公開授業参加者数・・・・・・(○)H29/189名(H28/142名)</li> <li>初担任、新任教職員の情報交換会、および「本校が2校目となる教職員の会」1回実施・・・・・・(△)</li> <li>英語で実施・・・・・・(○)反転学習実施生徒数(のペダダウンロード数2293名)</li> <li>アクティブ型指導の実施1,2年英語で実践・・・・・・(◎)</li> <li>「フェニックス・プロジェクト」公開授業実施/外部参加者56名・・・・・・(◎)</li> <li>ICT活用教員42%・・・・(△)</li> </ul>
<p>4. 広報活動を学校経営の重要戦略と位置づける</p>	<p>(1)あらゆるチャンネルを通して本校教育活動の情報発信を行う。</p> <p>(2)入試制度の変更をチャンスととらえ、中学生が本校の真の価値を理解して受験するよう正確な情報の収集と提供を行う。</p>	<p>ア・今年度の入試結果を分析し、今後の効果的な広報活動につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>HPのきめ細かい更新を行う。</li> <li>学校協議会の意見・提言を学校運営の改善に生かす。</li> </ul> <p>イ・全教職員で在校生出身中学を訪問し、情報連携を密にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育産業との意見交換を適宜おこなう。</li> </ul>	<p>ア・全教職員で中学校を訪問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校HPのきめ細かい更新を図る。(H28/150回・14件)</li> <li>学校協議会を年間3回開催し、提言等を教職員間で共有する。</li> </ul> <p>イ・参加要請のある学校説明会(中学校主催、教育産業主催)にはすべて参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校見学会を年間2回開催する。</li> <li>中学生、保護者の個別の学校訪問の要望にもきめ細かく対応する。(H28/23件)</li> </ul>	<p>ア・全教職員による中学校訪問実施・・・・・・(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校HPの更新数、情報量増大(鳳高校ニュースH29/68件)・・・・・・(◎)</li> <li>要請のあった説明会にはすべて参加</li> <li>学校見学会2回実施・・・・・・(○)</li> <li>これまで要望のあった個別の学校訪問には全て対応(H29/10件)・・・・(○)</li> </ul>